

麻績村の価値を考える ワークショップ

主催 麻績村商工会
2022.4



遠く弥生の時代から交通の要所として栄えてきた麻績村（おみむら）。

標高は 580m 以上、面積のほとんどは山林原野です。村の自慢は豊かな自然。

夏は涼しく冬は氷点下となる厳しい気象が、四季折々の自然の豊かさ・美しさを感じさせてくれ
リンゴやお米を美味しく育てます。自然を活かした観光地、文化史跡もたくさんあります。

長野市と松本市のほぼ真ん中、高速道路も通っていて、実は交通の便が良いのです。

若い移住者と地元の皆さんとの交流も活発、気象は厳しいけど温かい村です。

人口約 2500 人のこの村の「豊かな30年後の姿」をみんなで考えました。

この冊子は、2022 年 4 月に長野県東筑摩郡麻績村（おみむら）で行ったワークショップの様子をまとめたものです。全 4 回の日程で参加者は 15 人。農家や主婦、移住者、カフェや不動産、民泊を経営する人々など、麻績村内外の幅広い世代の人々が一緒に、麻績村のありたい姿を熱く語り合う素敵な 4 日間になりました。

主催：麻績村商工会

企画 / 運営：一般社団法人 ブランディングデザイン協会

デザイン思考で 麻績村の価値を考える

社会にイノベーションをもたらす手法として注目されているデザイン思考。その考え方を学びながら、麻績村の価値を考えるワークショップ。リアル会場（麻績村商工会）とオンラインによるハイブリッド開催で、麻績村内外のさまざまな人が参加した。

1日目 オリエンテーション 麻績村をブランディングしたい…！

ワークショップ初日。講師 井手（一般社団法人ブランディングデザイン協会、以下 bda）が開催趣旨とともに、人口減少など麻績村が抱える課題を共有した。そして、なぜデザイン思考が必要か？デザイン思考とはなにか？地域ブランディングにおいて重要な2つの視点などをレクチャーした。その後、4日間の概要やゴールを説明し、参加者が一人ずつ自己紹介と意気込みを語った。最後にアイスブレイクとして、既存の枠組みに囚われず、新たな価値を発見するために、自分自身のバイアス（先入観）に気づくワークを行った。



2日目 深いニーズを探る 私が思う「理想のまち」とは？

地域の魅力を発見するために行うワークとして、一般的にイメージされるのはフィールドワークである。一方、今回のワークショップでは、まずデザイン思考の「共感」のステップを重視し、参加者一人ひとりのエピソードから「理想のまち」に対するさまざまな価値観を発見するワークを行なった。2人1組のペアでお互いにインタビューし合い、エピソードを絵に起こしたものを分解することで、意識していなかった当たり前の行動に気づくことができる。そこにどのような価値が生まれているのか、お互いの理想のまちに対する思いを共有した。



3日目 想像から創造へ 麻績村の可能性を探る

デザイン思考の「創造」は、理想の状態にたどりつくためのアイデアを生み出すステップである。ワークショップ3日目は、まず30年後の麻績村で、できること・できなくなってしまうことを想像し、理想の麻績村を思い描いた。そして、理想とする麻績村を実現するために何が必要か、アイデアを発想した。ここでは、現実性や実現度よりも、こうなったら面白いと思う可能性を探ることを重視し、発想のヒントになる7つの視点、SCAMPERなどの手法を用いてアイデアを創造した。



4日目 アイデアの深掘り / 発表 みんなの憩いの場を作りたい…！

こうなったらいいね！こうしたい！みんながワクワクする理想の麻績村を実現するために何をすべきか？なぜそうなってほしい（そうしたい）のか？でも現状は？できない理由は？こうしたらできるんじゃないか？3日目に創造したアイデアについて各々で深掘りをした。その後ペアに分かれてお互いに考えを共有し、思ったことや感じたことをコメントし合った。そして、理想の麻績村の実現に向けて自分自身はどのような行動を起こすのか？最後に一人ずつ発表・アクションを宣言し、お互いの思いや熱意に共感しつつワークショップは終了した。



デザイン思考とは？

Design Thinking 5 step

Empathy
共感

Define
定義

Ideate
創造

Prototype
試作

Test
テスト

デザイン思考とは、その人も気づいていない本質的なニーズ（欲求）を見つけてより良い解決策を導き出すためのプロセス。昨今の曖昧で複雑な問題と向き合うために多様な人々と共創する方法として、ビジネスや行政においても取り入れられている。

参加者の声

後日実施したオンライン振り返り会やアンケートのコメントの一部を抜粋しました。

この度はありがとうございました。参加させていただき、色々な角度から麻績村を見れた気がします。参加された皆様の今後の展開が楽しみです。ありがとうございました。

40代女性

結構女性の参加率が高くてちょっと驚きでした。こういったのって継続が大切で一部の人間が頑張ってもちょっと難しいのでやっぱりなるべく周知して多くの人間がなるべく共有認識を持った方がいいかなと思っています。

50代男性 農業、SE

麻績村に住んでいる人と住んでいない人のいろんな意見を聞くことができたのが楽しかったです。30年後のことを考えて10年後のことを考えるというのは、脳みそが活性化された感じがしました。

40代女性 りんご農家

退職後のサラリーマンで、自分のところの事業もあったものですから、どういう風に認知してもらってコンセプトを作ってということは本で読んだくらいですが、その重要性を感じていました。会社にいた当時は、コーポレートアイデンティティが大事だということで、やっていましたが、デザイナーさんに「カッコよくやってよ」って依頼していました。それじゃだめだなということに気づきいい勉強になりました。

60代男性 不動産業

みなさん麻績村のことをすごく愛していっちゃって、人口がどんどん減っていきますけど、なんとか盛り上げたいという気持ちがすごく伝わってきました。外部の方に頼んで、こうしてブランディングをして盛り上げていこうという新しい考えを取り入れたりして、活力のある地域だなとすごく思いました。

30代女性

麻績村でこれをやりたい、こうしたいという気持ちが強い方が多く参加されていて刺激を受け、参考になる話を聞かせていただきました。先生方からも色々アドバイスをいただいて大変勉強になりました。

40代女性 グラフィックデザイナー

主催者・講師メッセージ

主催 麻績村商工会

塚原 亜希子

今回、このようなワークショップを開催したきっかけは、事業者さんの伴走支援をどう行っていくべきか。ということからでした。「麻績村」を題材にしたワークショップには、ハイブリット開催ということもあり、村内外の多くの方に御参加いただき、また貴重なご意見をいただきましたこと、大変ありがたく思っております。ぜひこれを何かしらの形にして、村のために活かしていきたいと思うと同時に、今回学んだことがそれぞれの事業においても活かしていただけるよう、引き続き支援を行って行きたいと思います。

企画 / 運営

bda Branding Design Assosiation
一般社団法人 ブランディングデザイン協会

代表理事 長尾 徹

今回のワークショップではデザイン思考のステップを経験していただきながら「麻績村の価値」について考えていただきました。「価値」とは、村を訪れる人々の価値でしょうか？村に住む人々にとっての価値でしょうか？どちらか一方ではなく、両者が交わりながら営む「思い」が「麻績村の価値」となるでしょう。デザイン思考は「ありたい未来」を創造する手助けをします。ワークショップ参加者の方々がそれぞれの思いを共有することができていたと思います。麻績村の「ありたい未来」への第一歩は踏み出されました。

理事 井手 美由樹

麻績村には10回以上伺っています。今回は様々な視点をお持ちの方々にご参加いただきました。皆様の麻績村への愛を感じるとともに、改めて麻績村の多面的な魅力を教えていただき感謝しています。事業を見直すきっかけとして、ワークショップにご参加くださった方もいらっしゃいます。「未来から逆算して考える」ことは事業を組み立てる上でもお役に立つのではないかと思います。またお会いできるのを楽しみにしております！

講師 宮崎 愛弓

麻績村在住の方が「おみは…だね」と、麻績村のことを「おみ」って呼ぶところが好きです。地元のことを愛称で呼ぶ人に初めて出会ったので、とても印象に残っています。「麻績村」という漢字にあるように、今回のワークショップで感じた思いを語り紡いでいってほしいなと思います。冊子の表紙はそんな思いを込めています。